



古箏と私

古箏との出会いは九歳の時でした。古箏を習う前にピアノやバイオリンなどを音楽家の叔母に勧められ習ったこともありましたが、それらはあまり長続きしませんでした。その後叔母から古箏を習ってみないかと言われ、古箏の第一人者として著名な王昌元先生の家を訪ねました。そこには息をのむような美しい彫刻が施されている大きな楽器がありまし

た。それが古箏との初めての出会いでした。「どうぞ弾いてみてね」と先生に言われ、恐る恐る弦に触れてみました。その時、オルゴール箱を開けた瞬間のようにキラキラとした澄みきったサウンドが空間に広がり、それが全身を突き抜けていくのを感じました。世の中にこんな綺麗な音色が出る楽器があることに驚いたのと同時に、もう離れられない自分を感じ

ていました。

父親は小さい頃から音楽好きで、趣味でアコーディオンや二胡などをよく家で演奏していました。そんな父は誰よりも私を応援してくれました。十二歳で上海音楽学校に合格し、その後六年間は古箏二筋で立した。いつかは大きな舞台に立ちたいと強い思いを抱きながら練習に励んでいました。そんな私をいつも優しく導いてくれて



【伍 芳(ウーファン)プロフィール】

中国・上海生まれ。9歳より古箏を始め、中国で最も難関といわれる上海音楽学校に入学、1990年7月同校を首席で卒業し、来日。1996年9月に東芝EMIよりデビュー。日本における現在の中国楽器ブームの先駆けとなる。サクソ奏者KENNY G、南こうせつ、東儀秀樹など数々のアーティストと共演。『トップランナー』『徹子の部屋』など多数のテレビラジオ番組に出演のほか、朗読、狂言、人形浄瑠璃文楽、和太鼓との共演、皇太子様、雅子様への御前演奏等々、意欲的な演奏活動を行っている。近年、古箏教室を開き古箏の普及にも努めている。2015年1月14日震災復興への祈りをこめたオリジナル曲「あのひとともに」を発表。2015年4月15日に通算11枚目のアルバム『My Favorite Movies』を発売。中国の古典、現代曲だけにとどまらず、様々なジャンルに挑戦する一方で、作曲活動にも力を注ぐ。

いたのは、五歳年上の姉伍鳴でした。姉は将来グローバルに活躍したいという夢があり、上海外国語学院付属高校卒業後に日本の知

人に招かれ、その一歩として日本へ留学する道を選びました。留学後のある日、「古箏も持つて日本に遊びに来てね。」と姉から連絡がありました。当時、音楽学校で高校一年生だった私は一九八八年の八月に夏休みを利用して、両親と共に大きな古箏を抱えて「鑑真号」という船に乗り、京都大学に留学していた姉を訪ねました。

2010年6月30日上海万博会場芸術センターで上演された音楽劇「彩虹橋」

た。姉の友人が私の演奏を聴き興味を持って頂いたことがきっかけで、「伍芳古箏コンサート」が実現したのです。会場は小さな和室でしたが、まだ発表会程度の演奏経験しかなかった私にとってそれはどんな舞台よりも大きく感じられました。自分が学んだことをすべて出し切り、無心に演奏しました。コンサート後にお客様から、古箏が中国をイメージさせるだけでなく心を穏やかにしてくれるという声が多かったのが印象的でした。自分の演奏でこれほど多くの拍手を浴び、お客様に喜んで頂くことを生まれて初めて経験し、喜びを噛みしめました。そして、音楽は人々の心をつにすることを実感しました。

コンサートにお越し頂いたお客様の中に日本琴の安田弘子先生がおられ、日本での演奏活動を考えてみないかとお言葉

を頂きました。帰国してからも京都で演奏した日々が脳裏に蘇り、日本で中国古箏を広めたいという想いが日に日に強くなりました。音楽学校卒業後の一九九〇年十月末、古箏と寄り添いながら再び日本行きの船「鑑真号」に乗りました。

来日してからは大学に通いながら、日本での演奏活動を始めました。当日商社に務めていた姉は仕事の合間を縫って演奏会場の下見や打ち合わせなどのマネージャー業をこなし、いつも司会まで務めてくれました。

一九九四年の末、姉から真剣にメジャーデビューの話を持ちかけられました。九五年の四月に音楽事務所を設立し本格的に演奏活動をスタートするのが二人の夢でした。

一九九五年一月十七日五時四十六分、阪神淡路大震災で西宮の自宅が全壊し、姉は帰らぬ人となりました。全壊した自宅の中から奇跡的に古箏だけ

が無事に発見されました。震災翌月の二月に行われた震災チャリティコンサートでは姉が一番好きだった古箏の名曲「雪山春曉」と「戦台風」を演奏しました。演奏中、いつものように微笑んで私の演奏を聴いている姉の姿がはつきりと思い浮かび、大きな拍手の中で「芳芳、今日の演奏は良かったよ」と姉が言ってくれたような気がしました。そこで改めて、音楽を続け姉と二人で描いた夢を実現していく決意を新たにしました。



1996年10月16日大阪いずみホールデビューコンサート

一九九六年の秋にデビューしてからは古箏の可能性を追求しつつ、様々なチャレンジをし

した。デビューアルバム「箏心」に収録されている組曲「ダスカの瞳」は同時に二台古箏を演奏しなければならぬ難曲でした。半音と転調の多い作品で

したので、五音階しかない古箏では不可能なことだと最初に思いましたが、古箏の配置と音階の並びを工夫し、大阪いずみホールで開催されたデビュー記念コンサートで同時に二台の古箏を演奏可能にしたことは大きな喜びでした。

また、震災で亡くなった姉を想いオリジナル曲も書き始めました。しだいに自分の音楽が共感を呼び、独自の音楽スタイルを形作っていきました。二〇一〇年上海万博では、音楽劇「彩虹橋」が上演されました。全編オリジナル曲を通して姉との思い出を演劇と合わせる形で構成され、同年十二月神戸朝日ホールでも上演されました。出演者の皆様と心を一つにし、全身全霊で舞台を務めたことは一生忘れることはできません。

阪神淡路大震災から二十年となる今年の一月十四日に震災



2015年5月10日神戸朝日ホールで行われた「伍芳とその仲間達の音楽会～夢紡ぐ二十一弦古箏の調べin神戸～」

ました。長年私の音楽活動をリードしてくださった素晴らしい仲間達であるバイオリニスト中西俊博さん、ピアノストフェリアン・レザ・パネさん、篠笛&パーカッション奏者狩野泰一さん、ギタリスト鬼怒無月さんとのコラボレーションにより古箏の新しいサウンドとハーモ

中国古箏演奏家・作曲家

伍 芳(ウー・ファン)

ニーが生まれ、本当に幸せな時間でした。奏でることは自分の人生そのものですが、振り返れば様々な想いの断片が見えてきます。今言えることは、自分の心の底から湧きだす感情を素直に音に託しそれを紡いでいくプロセスをこれからも積み重ねていくだろうということです。時には意外な自分を発見し、思い浮かぶ情景を背景に音世界の中で自由に飛び跳ねるような感覚を大切にしたいです。その一瞬一瞬すべてが新鮮で、感動的で心満たされる時間でもあります。究極の自己表現だと思います。

古箏(guqin)

古箏は中国の伝統的な民族楽器で弦楽器に属する弾撥弦楽器であり、日本のお琴のルーツでもあります。古箏の歴史は古く、既に春秋戦国時代に秦の地で流行していました。初期は五弦だったともいわれていますが、漢代以降十二弦、十三弦のものが現れ、明、清時代から十五弦、十六弦となりました。最近では、二十弦、二十三弦、二十五弦などの箏が多く演奏されるようになり、箏は桐の木で作った長方形の首箱にスチールの上にナイロンと絹糸を巻いた弦を張り、柱で音階を調節しながら、右指先に三つまたは四つ玢瑁で作られた義爪をテーフで固定して弾きます。最近では曲によって両手に義爪をつけて演奏するスタイルも増えてきました。古箏は華やかな音で、美しい叙情的な曲を表現できるほか、氣勢盛んな曲もよく表現する事ができます。